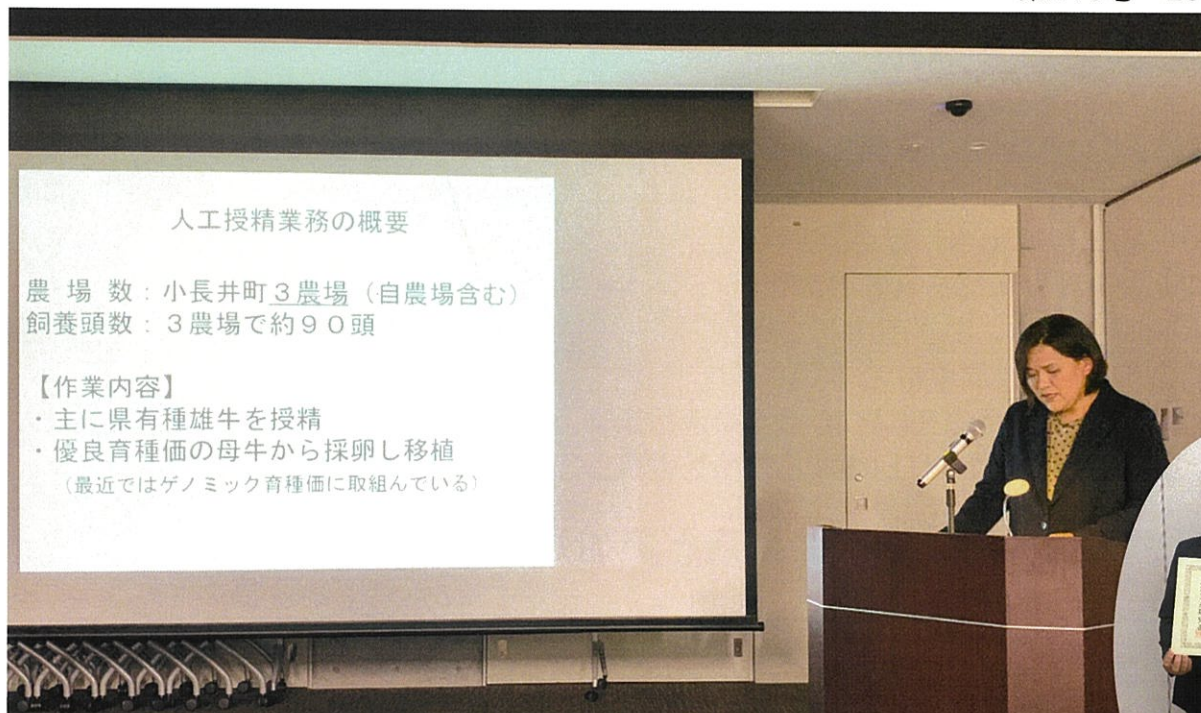


ちゅうおう

第210号 2025年



長崎県家畜人工授精師体験発表会で県知事賞を受賞された小柳詩織(諫早市)さん



長崎県県央振興局農林部（中央家畜保健衛生所）

〒854-0063 長崎県諫早市貝津町3118

TEL 0957-25-1331（代）（休日、夜間も携帯電話に転送されます）

FAX 0957-25-1332

E-mail 衛生課：s34500@pref.nagasaki.lg.jp

防疫課：s34510@pref.nagasaki.lg.jp

検査課：s34520@pref.nagasaki.lg.jp

[防疫課]

E-mail



[家保HP]



HP : <http://www.pref.nagasaki.jp/section/ko-chuokatiku/index.html>

[目次]

- P.1… 表紙：小柳詩織さんが県知事賞受賞
- P.2… 高病原性鳥インフルエンザはこれからも注意が必要です！！
- P.3… 国内でランピースキン病が発生しています
年末年始及び春節の時期における家畜防疫対策
～口蹄疫、アフリカ豚熱侵入防止対策の徹底を～
- P.4… 牛のアルボウイルスの流行が確認されました！
適切なワクチン接種等で予防しましょう！
- P.5… 家畜・家さんの所有者は年1回の『定期報告』の提出をお願いします！
飼養衛生ポータルサイトの運用が令和7年から始まります
- P.6… 令和6年度家畜衛生研修会から
～意外なもので起こった牛の創傷性心膜炎～
長崎県家畜人工授精師体験発表会が開催されました

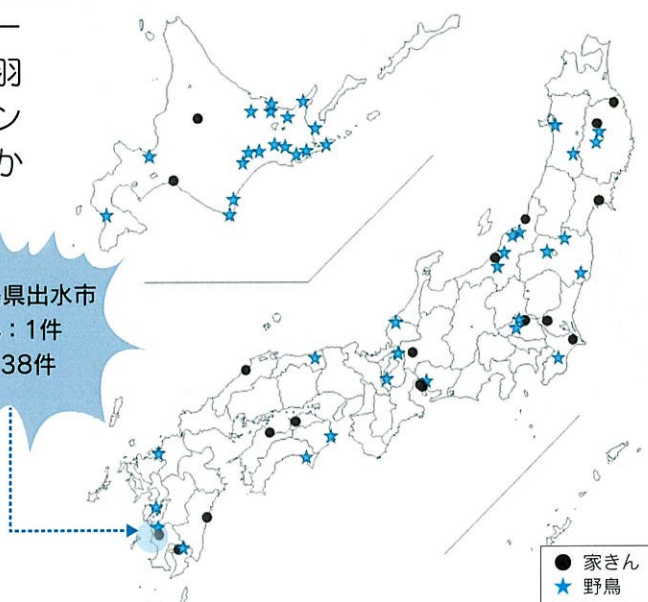
高病原性鳥インフルエンザはこれからも注意が必要です!!

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の今シーズンの家きんの発生は、14道県24件約361万羽が殺処分（令和7年1月10日現在）と前年シーズンの発生件数をすでに超過しています。特に1月から発生件数が増加しており、注意が必要です。また野鳥等については、16道県94件でHPAIウイルスが検出されています。

本県では家きん・野鳥等ともに発生がないものの、九州各地での発生が相次いでおり、特に鹿児島県出水市では野鳥等で38件と集中した発生が確認されています。

1月下旬～2月頃からは、出水市の渡り鳥が北帰行を開始するため、環境中のHPAIウイルスが増加することで、発生リスクがより高まります。また、ここ2年間は、2月以降も発生が継続していますので、油断せずに日頃から対策を継続して、発生防止に努めてください。

鹿児島県出水市
家きん：1件
野鳥：38件



HPAI発生農場の疫学調査の結果と追加対策

HPAI発生農場で実施される国の疫学調査については、一部の農場において飼養衛生管理基準の不備が指摘されています。

特に、工事業者等の外部入場者で衣服や靴の交換に不備が指摘されています。日頃から農場内関係者の飼養衛生管理については徹底していただいていると思いますが、外部から入場される方が農場に入る場合も例外が生じないよう、対策を継続してください。

さらに、冬場になり乾燥しやすい季節が続いており、塵埃が舞いやすい環境下での換気により、鶏舎周辺の塵埃に付着したウイルスが鶏舎内に侵入する恐れがあります。対策として、週1回の消石灰散布に加え石灰の上からの逆性石けん液を軽く散霧することで、消毒効果を上げ、塵埃の飛散を軽減できます。



▲農場入口に設置された、外来者用の長靴、衣服、車両用フロアマット



▲鶏舎周囲の石灰消毒



▲入気口フィルターの設置

異状時の速やかな通報を!!

死亡羽数が増加する、まとまって死亡する、産卵率が低下する等の異状がみられた場合には、速やかに当所までご連絡ください（土・日、祝日も対応します）。万が一HPAIであった場合に、速やかな防疫措置により周辺への拡散を防止するため、ご協力をお願いします。

国内でランピースキン病が発生しています

ランピースキン病は、ウイルスの感染により、皮膚の結節や泌乳量の減少等の症状を呈する牛の病気であり、主に吸血昆虫による機械的伝播により感染が拡大します。

令和6年11月6日に福岡県の乳用牛農場で、わが国初の感染が確認されて以降、2県（福岡県、熊本県）22農場（令和7年1月5日現在）で発生しています。福岡県では、初確認の2農場から約35km離れた農場（19例目）でも確認されています。本原因について、専門家より、サシバ工等が付着または侵入した車両によって他の地域に運搬された可能性も指摘されています。

このことから、今一度、飼養衛生管理基準の徹底、農場間の伝播リスクを低減させる対策をお願いします。

《飼養衛生管理の徹底をお願いします》

◆予防対策及び侵入防止対策

- ・吸血昆虫（サシバ工等）の対策。（発生源となり得る場所、特に除糞しにくい場所、牛が踏みつけない畜舎の四隅等、堆肥置場周辺等へのIGR剤の散布）、サシバ工の休息場所となる牛舎周辺の草刈り等
- ・農場間の伝播リスクを低減させる対策（車両消毒、車体や車内の吸血昆虫を農場間で運ばない対策）の実施
- ・他の畜産関係施設等で使用した器具は原則として農場内に持ち込まない。やむを得ず持ち込む場合は、洗浄、消毒する。
- ・注射針、人工授精用器具等体液が付着する物品を使用する際は、1頭ごとに確実に交換又は消毒を実施

◆牛の健康確認と早期発見・早期連絡の徹底

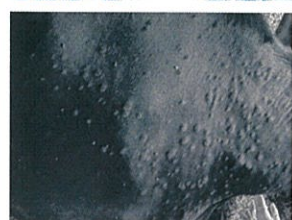
- ・本病を疑う症状がみられた場合には、当該牛を群から速やかに隔離するとともに、獣医師又は家畜保健衛生所に連絡するようお願いいたします。また、導入時や出荷時には健康状態の確認をお願いいたします。

農林水産省
HP

（ランピースキン病
に関する情報）



<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/lisd.html>



▲ランピースキン病発症牛体表の結節（福岡県HPより）

年末年始及び春節の時期における家畜防疫対策 ～口蹄疫、アフリカ豚熱侵入防止対策の徹底を～

年末年始を迎えるにあたり、海外からの人や物の移動が再び活発になることが予想され、これに伴い家畜伝染病が国内へ侵入するリスクが急速に高くなります。

2025年の春節（中国の旧正月）は、1月29日となっており、春節を機に多くの東アジアの国々では長期休暇に入ります。特にアフリカ豚熱は日本と台湾を除くアジア各国で発生が継続しており、国内での発生が大変危惧されています。

長崎では、5年振りに韓国定期便の運行が再開されました。国際線が就航する空海港では動物検疫による水際防疫対策強化が図られているところですが、農場への侵入防止対策の徹底が重要ですので、**飼養衛生管理基準の遵守**に努めてください。

●畜産関係者等の海外渡航の自粛

- ①アフリカ豚熱、口蹄疫等の発生地域への渡航を自粛して下さい。
- ②渡航した人を原則農場に立ち入らせないようにして下さい。

●農場への病原体侵入防止の徹底

- ①看板の設置等により衛生管理区域に不要な人を立入らせず、不要な物を持ち込まないようにして下さい。
- ②飼養者だけでなく、衛生管理区域に入場する全ての人に対し例外なく専用の衣服及び長靴の着用、手指消毒等を徹底するとともに、持ち込む物や入場車両の消毒を徹底して下さい。
- ③野生動物の侵入防止のための防護柵や防鳥ネット、畜舎の壁・天井等に穴や破損箇所、隙間等がないか再点検し、不備等を認めた場合は直ちに改善を図るなど、現場の「隙」を埋めて下さい。
- ④農場および畜舎周囲に消石灰を散布し、石灰の上から逆性石けん液を軽く散霧する等の待受け消毒を徹底して下さい。

●早期発見・早期通報の徹底

牛のアルボウイルスの流行が確認されました 適切なワクチン接種等で予防しましょう！

令和6年6月から11月にかけて、アルボウイルス（吸血昆虫によって媒介されるウイルス）の流行調査を実施した結果、下表のとおり、県内各地において複数のウイルスの動きが確認され、県央地域においても2種類のウイルスの流行が認められました。

＜令和6年度に県内で流行が確認された牛のアルボウイルス＞

ウイルス	アカバネウイルス	アイノウイルス	流行性出血病ウイルス血清型6
臨床症状	流死産、異常産 ※生後感染例では運動失調、起立不能、異常興奮等の神経症状	流死産、異常産	嚥下障害、発熱、食欲低下、流死産
解剖検査	関節拘縮、脊柱湾曲、骨格筋の発育不良、小頭症、孔脳症、水頭無脳症 等 (感染時期によって病変が異なる) ※生後感染例は著変なし	水頭無脳症、孔脳症、小脳低形成、関節拘縮症、脊柱湾曲症、筋肉の発育不良	食道弛緩、出血、咽喉頭の水腫、出血、舌の水腫
ウイルスの動きが確認された地域	五島	県央、県南、県北、杵岐、五島	県央、県南、県北、杵岐、対馬
ワクチンの有無	有	有	無

今年度は、流行性出血病ウイルス血清型6（EHDV-6）の関与を疑う嚥下障害事例が県内複数の農場で発生しています。発症牛はイバラキ病に類似した症状を示し、血液からはEHDV-6の遺伝子が検出され、かつ食道や咽喉頭等において筋肉の壊死等の病変が認められていることから、EHDV-6により引き起こされたものと考えられました。

今後もEHDV-6による被害が懸念されるため、飲水困難等の嚥下障害や食欲不振、発熱、流死産等が確認された場合には、診療獣医師または家畜保健衛生所までご連絡ください。



【対策】

アカバネ、アイノウイルスについてはワクチンが市販されていますが、EHDV-6に対する有効なワクチンはありません。感染しても症状を示さない牛もあり、免疫低下も発症に関与している可能性も考えられ、飼養環境等のストレス低減も有効な対策と考えられます。

引き続き、感染させないための吸血昆虫対策の他、発症防止のための適切なワクチン接種および適切な飼養衛生管理で我が家の牛を守りましょう！

家畜・家さんの所有者は年1回の『定期報告』の提出をお願いします!

家畜伝染病予防法により、**愛玩目的も含めて**下記の家畜・家さんを1頭（羽）でも所有している方は、**毎年2月1日時点**での飼養状況等の報告が義務付けられています。所定の報告用紙に記入のうえ、当所あて提出してください。報告用紙は農林水産省ホームページからダウンロード可能です。（右のQRコード）



家畜の種類及び飼養規模により提出書類が異なります。期限内の提出をお願いします。

畜種ごとの飼養規模の分類	小規模	中規模	大規模
牛（成牛）（※）・水牛・馬	1頭	2～199頭	200頭以上
牛（子牛・育成牛）（※※）	1頭	2～2,999頭	3,000頭以上
鹿・めん羊・山羊・豚・いのしし	5頭以下	6～2,999頭	3,000頭以上
鶏・うずら	99羽以下	100～99,999羽	10万羽以上
あひる・きじ・ほろほろ鳥・七面鳥	99羽以下	100～9,999羽	1万羽以上
だちょう	9羽以下	10～9,999羽	1万羽以上

※ 乳用種の雄牛・交雑種の牛は17月齢以上、それ以外は24月齢以上

※※ 乳用種の雄牛・交雑種の牛は満4月齢～17月齢未満、それ以外は満4月齢～24月齢未満

飼養規模別の提出書類	小規模	中規模	大規模
定期報告書	○	○	○
飼養衛生管理基準の遵守状況及び遵守するための措置の実施状況	—	○	○
衛生管理区域の設定、消毒設備の設置等 家畜の飼養密度 埋却地等の確保状況	—	△	△
飼養衛生管理マニュアル	△	△	△
大規模農場に関する報告	—	—	△

○：必ず記入し提出

△：以前に提出し変更がない場合、提出不要

—：提出不要

提出期限	畜種
令和7年4月15日（火）まで	牛、水牛、馬、鹿、めん羊、山羊、豚及びいのしし
令和7年6月16日（月）まで	鶏、うずら、あひる、きじ、ほろほろ鳥、七面鳥及びだちょう

飼養衛生ポータルの運用が令和7年から始まります

毎年の定期報告等の作業を電子化し時間短縮・効率化を図るため、農水省が「飼養衛生ポータル」(以下、ポータル)という電子申請システムを開発し、今年度から運用が始まります。インターネットが繋がるスマートフォン等で利用可能で、過去の履歴を引用することで次回以降の入力の手間が省けます。

★ポータル利用の流れ

- ① 農林水産省共通申請サービスHPよりgBizIDを取得します。(https://e.maff.go.jp/PortalLogin)
- ② https://www.rearing-hygiene.maff.go.jp/loginからポータルに移動し、gBizIDでログインします。

★ポータルで実施する内容

「農場情報（農場台帳）」、「定期報告」、「飼養衛生管理基準の自己点検」、「飼養衛生管理基準遵守状況の改善報告」

★ポータルの概要や登録方法、操作方法などについて、農林水産省公式YouTubeチャンネル(MAFFチャンネル)に動画がアップされています、下記のアドレスから視聴できますのでご活用下さい。

(https://www.youtube.com/playlist?list=PLMvvhD9xvwfm_I183iTMEJGIqNsiFGYSj)

【定期報告の運用】

令和7年2月の報告：従来の紙様式またはポータル

令和8年2月以降の報告：ポータルのみ

各アドレスは
右のQRコード
からも使用
できます▶



〈共通申請サービス〉〈MAFFチャンネル〉〈飼養衛生ポータル〉

令和6年度家畜衛生研修会から ～意外なもので起こった牛の創傷性心膜炎～

令和6年10月に茨城県つくば市にて家畜衛生研修会が開催されました。その中で、意外なものが原因で起こった牛の創傷性心膜炎の報告事例がありましたので紹介します。

〈創傷性心膜炎とは〉

牛にみられる特有の疾患で、自ら嚥下した針金や釘等の尖体異物が第二胃から胃壁、横隔膜、心膜を貫通することによって生じる疾病であり、非鉄金属やプラスチックも問題となることがある。

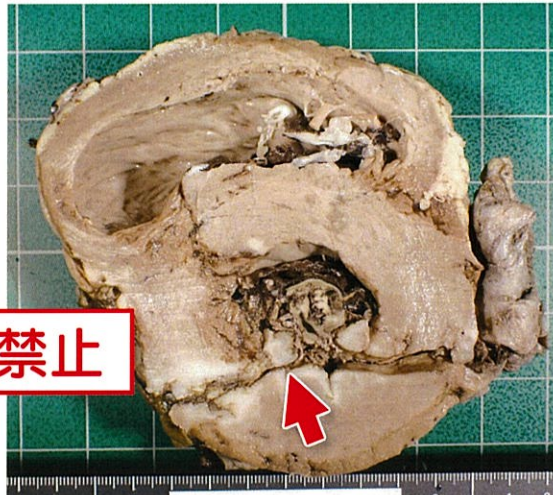
〈発生概要〉

- ・ 症例：牛、黒毛和種、5か月齢
- ・ 経過：4か月齢で導入後、元気消失がみられ、食欲不振、呼吸困難、肺雑音が確認され、治療をするも症状は改善せず死亡
- ・ 剖検所見では、心膜と胸壁が癒着して袋状になっており、内部には黒褐色の泥状物が充満し、**竹の枝**を確認。枝は心臓の壁を貫通しており、心膜と横隔膜と第二胃は癒着し、瘻孔(ろうこう)により連絡。全身諸臓器に膿瘍形成

▶ 心臓・横隔膜・
第二胃の癒着・瘻孔



▶ 心臓に竹の枝が貫通



▶ 竹の枝
(8.5 cm)



画像転載禁止

本症例は、この小さな竹の枝を摂食したことで発症したものと考えられました。この竹の枝の正体は、おそらく「竹ぼうき」であったと考察されています。

創傷性心膜炎といえば、まず釘等の金属異物が想定されますが、このように非常に身近な道具でも牛を死亡させてしまう原因となります。本症例のような事故を起こさないために、**日頃から畜舎の整理整頓を行い、牛が遊び食いをしないよう**に気を付けましょう。

長崎県家畜人工授精師体験発表会が開催されました

令和6年11月25日（月）、長崎県庁において「令和6年度長崎県家畜人工授精師体験発表会」が開催されました。県内の家畜人工授精師4名が発表され、当所管内より諫早市小長井町の小柳詩織（表紙の写真）さんが「ICT活用及び診療獣医師との連携による繁殖成績向上の取り組みについて」で最優秀賞・県知事賞を受賞されました。おめでとうございます！

小柳さんは、自農場を含めた近隣3農場の人工授精業務を行っており、令和元年からICTを導入し効率的な牛群管理を行うとともに、発情不明牛への対応等診療獣医師との連携強化や飼料給与の見直しを実施されました。その結果、繁殖成績が改善し、さらに「1年1産」を目指して日々努力を重ねられています。

小柳さんは令和7年2月14日に開催される「第53回家畜人工授精師優良技術全国大会」において本演題を発表されます。ご健闘をお祈りします。